

2023

6月

ゆうひろば

遊通信

第 187 号



国際シンポジウム「先住権としての川でサケを獲る権利」
(2023.05.28 浦幌町コスミックホール／平田剛士撮影)

特集 安保3文書改定を考える

「もはや戦前である」という認識と「新たな大戦」を回避するために	・・・ 2
「軍拡NO！女たちの会・北海道」設立集会より	・・・ 5
ここ 10 年の日本の軍拡の動き	・・・ 6
明大・山田朗先生の講演会を企画して	・・・ 7
開発協力大綱の改定と非 ODA の軍事援助	・・・ 8
住民を軍事監視区域に囲い込む土地規制法	・・・ 9
G7広島サミットを問う市民の集いに参加して	・・・ 10
台湾と協調し「有事」回避を	・・・ 11

寄稿 「思考停止装置」に抗い続けた人、加藤多一さんを悼む	・・・ 12
寄稿 旭川市議会議員選挙選・体験記	・・・ 14
リレーエッセイ 私とさっぽろ自由学校「遊」(第6回)	・・・ 15
連載 タントアナクネピリカ(第6回)	・・・ 16
連載 フィールドワークな日々(第93回)	・・・ 17
さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ など	・・・ 18-20

特集

安保3文書改定を考える

日本の防衛政策がまた大きく転換しようとしている。安保3文書の改定だ。敵国への攻撃、NATO並みの防衛費増、米軍との一体化、中国をにらんだ琉球弧での部隊増強など、その変容ぶりは2014年の集団的自衛権行使容認、翌年の安保法制を超えるさえ指摘される。防衛財源確保法など3文書具体化の法整備も矢継ぎ早に進む。

3文書改定による軍拡の意味を読み解き、市民としての対抗策を探る。

「もはや戦前である」という認識と 「新たな大戦」を回避するために

本庄十喜

改定安保3文書の閣議決定と「戦争できる国」づくり

ウクライナ侵略戦争を契機に、日本でも防衛力（＝軍事力）の増強やロシアと中国を同一視するかのような「台湾有事」論が当然のごとく議論されています。そうしたなか岸田政権は2022年12月16日、「国家安全保障戦略」など安全保障関連3文書（以下、安保3文書）の改定案を閣議決定しました。そもそも安保3文書とは、2013年に時の安倍政権が掲げた「積極的平和主義」に基づき策定された外交・防衛政策の基本方針である「国家安全保障戦略」と、「防衛計画の大綱」（防衛大綱）から名称を変更した「国家防衛戦略」、「中期防衛力整備計画」（中期防）を改称した「防衛力整備計画」のことで、それぞれ5～10年の中長期を想定して安全保障上、必要な政策などが盛り込まれているものです。

「防衛計画の大綱」は1976年に初めて作られ、これまでに6回策定されてきました。2013年の改定では、陸・海・空3自衛隊を連携して運用する「統合機動防衛力」の構築が、

18年では、宇宙、サイバー空間、電磁波を含む全領域の自衛隊の能力を融合させる「多次元統合防衛力」の構築がそれぞれ明記されました。

今回の改定では、米国と同じ名称となる「国家防衛戦略」に改め、戦略的な側面が重視されています。さらに、防衛装備品の5年間の調達計画を定めた「中期防衛力整備計画」は対象期間を10年間とし、名称が「防衛力整備計画」に変更されました。そうして今回の改定で戦後日本の国是であるはずの「専守防衛」原則を根本から覆すと議論の対象になっている「敵基地攻撃能力」に関しては、「国家安全保障戦略」で保有を打ち出し、「国家防衛戦略」で使用する際の要件、「防衛力整備計画」で関連する装備を明らかにすることとなりました。

また、この度の改定では「敵基地攻撃能力」の明記に加え、23年度から今後5年間で防衛費（という名の軍事費）は43兆円、最終年の27年度には現在の2倍となる国内総生産（GDP）比2%である9兆円を総額として提示したわけですが、そうなれば日本は世界第3位の軍事大国（現在でも世界第8位）に躍り出ることにな

ります。「専守防衛」を放棄した上でさらに防衛費を2倍にするという戦略はまさに日本が自らを戦争できる国に変貌させることであって、本来明文改憲でなければ許されないほどの戦後安全保障政策の重大な転換です。にもかかわらず岸田政権は国会での議論を飛び越え閣議決定のみでこの大転換を強行しました。この立憲主義をかなり捨てた暴挙は、2015年に強行された安全保障関連法と集団的自衛権行使容認の解釈変更の際の手法をまさに悪しき前例としたものです。

閣議決定の乱発、もはや「戦前である」という認識

しかし、この与党勢力の数の暴力によって閣議決定を乱発する国会軽視・議会制民主主義の冒涜は、安倍政権以降教育への介入の手法としても度々行われてきたもののなのです。その一例としては、日本軍「慰安婦」制度の強制性を否定する閣議決定（2007年）や「従軍慰安婦」を否定し、「単に「慰安婦」という用語を用いることが適切である」、「強制連行」又は「連行」ではなく「徴用」を用いることが適切である」などの閣議決定が存在します（2021年）。そもそも2014年の教科書検定基準の改悪によって、日本近現代史に関しては教科書への「政

府見解」の記載を強制していることから、「閣議決定」に則った記述をしなければ検定合格せず教科書として採用されないため、教科書会社は叙述の「自主規制」を余儀なくされています。このような教科書統制を始めたという教育への介入も、「戦争できる国」の前提として不可欠な国民づくりのために行われているのです。

その他、安倍元首相の国葬の是非についても国会での議論を無視し閣議決定による「ツルの一声」によって強行されたことは記憶に新しいものですが、国葬の強行が弔意の強制と内心の自由の侵害にあたるとの指摘は、多くの論者によりされてきました。

満州事変からアジア太平洋戦争にいたる一連の戦争の過程を改めて見直すとき、侵略戦争は常に「自衛」の掛け声から始まるという事実や、「戦争前夜」には内心の自由や学問の自由の侵害の風が吹き荒れていたことを踏まえるならば、この間世論の批判をよそに立って続けに成立した特定秘密保護法（2013年）やテロ等準備罪（共謀罪）の新設を含む改正組織犯罪処罰法（2017年）、重要土地利用規制法（2021年）などは、戦前の治安維持法や軍機保護法を彷彿とさせるものですし、また、今般の日本学術会議への介入を象徴的事例とする学問の自由への侵害も、学術機関での軍事研究を否定する

学術会議への「テコ入れ」とみる他なく、これらは総じて「戦争できる国」作りのための足掛かりといえるものでしょう。こうした事象を歴史から照射するのであれば、日本は既に「戦前」の段階に突入していると言わざるを得ません。

軍拡、「新たな大戦」の潮流を押し戻すために――私たち市民に求められているもの――

以上述べたように安倍政権以降から改定安保3文書の閣議決定に至るまでの度重なる国家戦略によって、日本が「戦争できる国」に変貌を遂げていることは紛れもない事実です。そうした危機に直面する最中、私たち「戦争をさせない」市民に求められているものは一体何でしょうか。それは、「もはや戦前である」という危機意識を常に持ちつつ、日本がかつて犯した侵略戦争の被害と加害の歴史と記憶を紐解きながら、現在行われている戦争の実態や日本の軍拡の実態をしっかりと認識した上で、軍拡に突き進む国家を監視していかなければならないということです。さらに今一度、改定安保3文書の問題点を確認するのであれば、そこでの仮想敵国は中国（今回「防衛力整備計画」に明記されたミサイル「島嶼（とうしょ）防衛用高速滑空弾」は射程距離2千～3千キロであり、北京が実態として攻撃射程に含まれている）であることが

軍拡に危機感を募らせた有志によつて発足した「軍拡NO! 女たちの会・北海道」の設立記念シンポジウム「新しい戦前にさせない」が5月11日、札幌エルプラザで開かれ、1月に東京で発足した「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」の共同代表で法政大学名誉教授の田中優子さんと、北海道の会の呼びかけ人で作家の雨宮処凛さんが講演した。2人の発言を紹介する。

《田中優子さん》「女たちの会」は1月、ほんの数人で始まったが、オンライン署名では、1カ月足らずで7万5千人分が集まった。なぜ「女たち」か。女性は、戦争の可能性が迫るこの事態を、初めて参政権を持つて迎える。前の戦時には女性も戦争体制に絡め取られてしまった。今度こそ「反戦」や「戦争回避」を訴え続けなければならない。

自民党は軍事費の財源確保のため増税しようとしているが、軍拡は、この国を衰退させ、周囲に敵を作るばかり。今こそ生活と平和を守る「女性」目線の政治が必要だ。女性が安心して働けない環境では男性や子供も貧困化

する。私たちは国会審議や総選挙などもないまま戦後の安全保障原則を大転換させることを認めない。軍事費「5年間で43兆円、GNP比2%」の撤回を求める。

中国は一つだという原則を、日米も認めている。中台問題は国内問題であり、米国や日本が軍事的に関わるべきことではない。なのに有事に関し何の説明もない。

《雨宮処凛さん》この3年ほどのコロナ禍での貧困、軍拡どころじゃない現実がある。貧困対策を訴えるたびに「少子高齢化で財源がない」とさんざん言われて来た。なのになぜ軍事費に関しては財源論より前に大幅増額が決まるのか。

コロナ禍で、生活困窮者の若年化とともに、女性の割合が増えている。炊き出しなどの現場に集まる人の中に、家で夫と子どもが待っているという母親など女性の姿も目立っている。2008年から09年にかけての年越し派遣村に来た約500人のうち女性はわずか1%。それが、コロナ禍後のメール相談や、年末年始のコロナ被害相談村では20〜30%前

飯島秀明（いじまひであき）
元新聞記者。帝国日本の加害の歴史に向き合うことをライフワークに「遊」や平取「アイヌ遺骨」を考える会、沖縄の基地を考える会・札幌などで活動。

後が女性だ。家がない、収入ゼロ、所持金千円以下といった深刻なケースが多い。

元々女性は非正規率が高く、男性より低賃金だった。コロナ禍で最初に打撃を受けた飲食・宿泊などで働く人の6割が女性で、そのほとんどが非正規。非正規の女性のうち4割強は単身やシングルマザーで、自らの稼ぎで暮らしている。560万人を超えるこの層に対する支援がなにもない。

コロナが5類になって終息ムードだが、特例貸し付けが返済の時期を迎えるなど、公的支援がものすごい勢いで後退し始めている。旅行支援などの施策は、余裕のある人を支援し、困窮者を放置するものだ。弱者を見捨てる一方の軍拡に強い違和感を抱いている。

特集

戦争準備より生活支援を「軍拡NO! 女たちの会・北海道」設立集会より

文責 飯島秀明

らも、中国から見て明確な軍力増強であり脅威であること、こうした軍拡は連鎖し、ともすれば日本の予想をはるかに超えた歯止めのかからない世界的軍拡競争を招いてしまうということが危惧されます。中国を仮想敵国に設定する第一義的な要因である中国とロシアの同一視と「台湾有事論」は、外交的要素を捨象した米政府系機関やシンクタンクの主張を鵜呑みにした議論であること、中国は現在日本の貿易額の四分の一（中国への進出企業は1200超）を占めるという現実があるということ、そうした主要貿易相手国を敵とみなす無謀かつ非現実的な戦略は、本来経済界も含めて現実主義的な側面から批判しなければならぬものはずです。

さらに付言すべきは、「侵略」を「自衛」に、「軍事」を「防衛」に、「敵基地攻撃能力」を「反撃能力」というような言葉のすり替えは、問題の本質を見失わせるための常套手段であり、そうした目論見に私たちは決して騙されてはなりません。アメリカの盾、先鋒として中国を仮想敵国と位置づけるのではなく、建設的な関係を構築してきた悠久の日中関係史を顧みながら、米中の仲介役として外交に積極的役割を見出す世論を形成するべきではないでしょうか。

今こそ、安倍政権の打ち出した「積極的平和主義」などではなく、紛争や戦争の要因となる

格差や差別、貧困などの構造的暴力を解消するための「人間の安全保障」（アマルティア・セン）の観点に立ち、平和創造のための外交努力にこそしむこと、ウクライナ侵略戦争に際してもその一日も早い終結に向けて、軍事協力ではなく憲法の原点に立った平和外交の展開と調停者形成の必要性を具体的に根気よく主張し続けることが求められているはず。

本庄十喜（ほんじょうとき）
「遊」理事。北海道教育大学札幌校准教授。

自然食ホロ

札幌市東区中沼西
5条2丁目3-16
TEL: 887-6224

いつも喜んで、
感謝して。

<http://holo.sunnyday.jp/>



「防衛省は言葉を巧みに言い換え、実態を見えなくさせています」「台湾有事を言っているのはアメリカだけです」「皆さん、軍事に関しては素人だと思いかもしませんが、普通の市民の感覚が大事なんです。専門家は専門分野しか見ないので、なかなか『軍備自体いらない』という発想にならないのです」。2月に偶然参加した明治大学教授・山田朗先生講演会。ぜひ札幌の皆さんとも共有したくなり、去る5月21日、安保3文書の改悪と日米軍事同盟をテーマにご講演いただきました。

先生のお話は、日本の軍事的な歩みを日清日露戦争の時代から俯瞰してみいくことから始まりました。軍事同盟とは仲良しクラブではもちろんなく、両国の思惑で戦略的に結ばれ、不要になれば簡単に破棄されること。数百年にわたり植民地を支配してきたイギリスなどの老獪な国々の思惑と重なったために日本がたまたま得た勝利を「実力」と勘違いし、さらに戦争に突き進んだこと。

その過程を検証しないまま、現在、防衛費はGDP比2%に向けて次年度以降の防衛予算まで前倒しで組まれ、2023年の新規後年度負担は7兆6千億円、前年比126.1%と驚異的な増額。使えるお金が増えれば、買える軍備の質も変わり、それが「戦略の変化」をもたらすそうです。例え

ば太平洋戦争時、航続距離の長い新型戦闘機Ⅱゼロ戦Ⅱの完成が真珠湾攻撃を可能にしたように。実際、「島嶼防衛用」を理由にスタンド・オフミサイルが導入され、射程距離も200kmから1500kmと、大幅に伸びて敵基地攻撃能力が上がったとのこと。日本は新しい国家安全保障戦略のための安保三文書改訂により、「自前の抑止力を持つ」方向に舵を切りました。

では今、私たちに何ができるか。山田先生は「市民自身が、戦争に至る歴史と実態、日本の軍拡について実情を知り、監視し、コントロールする力を強めていくことが重要」とおっしゃいます。これを実行するには、まずはここ数十年防衛費が10位を下ることのない「軍事大国・日本」の、平和国家とは名ばかりの実態を見つめる必要があります。

最後に、質疑応答で最も多かった「中国の脅威」について、記憶をもとに先生の回答をまとめます。「この150年は、長い歴史の中で中国が例外的に弱かった特殊な時代です。そういう中国を普遍だと思っているところに実態とのズレがあります。イメージではなくて、人的交流を通して現実の中国を知ること。そして逆に、日本の軍事強化が中国やアジア諸国からどうみえるかを考えなければ」。(余談ですが、私が数年前、戦争が兵隊「だけ」で

特集

日本の軍拡を止めるのは「普通の市民感覚」 明大・山田朗先生の講演会を企画して 水上さえ



5月21日に開催された講演会

水上さえ（みずかみさえ）
イベントグループWhats主宰。2020年以降は主にコロナ騒動について、対策の危険性も含め学習会を企画。学び調べる中で、戦争と感染症の類似性に気づく。

するものではないことを実感したのが、山田先生が館長をされている平和教育登戸研究所資料館でした。旧陸軍が風船爆弾や偽札等、秘密戦の研究をしていた跡地にあります。あまり知られていませんが、実は札幌にも、北海道朝鮮初中高級学校内に同胞歴史資料館があり、講演日の午前中に山田先生をご案内しました。いつか、「歴史資料館シンポジウム」ができればいいなあ

ここ10年の日本の軍拡の動き

- 2013年 国民の知る権利やプライバシーを侵害する懸念の中、特定秘密保護法が成立（12月）
- 2014年 兵器の輸出などを原則禁止する「武器輸出3原則」を撤廃し、輸出を基本的に解禁し、禁止する場合を規定した防衛装備移転3原則を閣議決定（4月） 集団的自衛権の行使容認を閣議決定（7月）
- 2015年 集団的自衛権行使容認を踏まえた安保関連法が成立（9月）
- 2016年 陸上自衛隊が与那国島に駐屯地を開設（3月）。これ以降、宮古島、奄美大島（19年）、石垣島（23年）でも
- 2017年 一般市民への監視に道を開く「共謀罪」の新設を含む改正組織的犯罪処罰法が成立（6月）
- 2021年 自衛隊基地、原発などの周辺の土地利用を規制する重要土地利用規制法成立（6月）
- 2022年 ウクライナ戦争開戦（2月） 企業活動に対する国の関与を強め、世界経済のブロック化につながる懸念が指摘される経済安保推進法が成立（5月） 安保関連3文書改定を閣議決定（12月）
- 2023年 日英、日豪の部隊間協力円滑化協定を国会が承認、関連法も成立（4月） NATOが、東京での連絡事務所開設を日本と協議中だと公表（5月）。国内の防衛産業を維持するための防衛産業強化法案、軍拡の裏付けとなる防衛財源確保法が成立（6月）



軍拡NO!女たちの会・北海道」の設立記念シンポジウム（5月11日）

特集

開発協力大綱の改定と非ODAの軍事援助

今井高樹

昨年9月、ODAなど日本の開発協力の基本方針を定めた政府文書「開発協力大綱」の改定が発表された。私たちNGOは「改定によって非軍事原則がさらに緩和されるのではないか」と大きな懸念を抱いた。なぜなら、前回2015年の改定では相手国の軍・軍関係者への支援が防災や領海警備などの目的に限って解禁されたからである。

結果的に、今年6月に閣議決定された新「開発協力大綱」では非軍事原則はほぼそのまま維持された。しかし、実質的に国際協力のあり方は大きく変わってしまった。安保3文書の「国家安全保障戦略」の中で、ODAとは別に軍事的な援助の枠組みを設けることが明記されたからである。そして今年4月、他国軍に武器・軍事インフラを無償で供与する「政府安全保障能力強化支援（OSA）」が正式に決定された。管轄は外務省である。

市民と外務省との意見交換の場では、「OSA導入は非軍事原則の破棄ではないか」との指摘が相次いだ。外務省は、OSAはODAとは全く別のものであり、開発協力の非軍事原則が損なわれることはない、との

強弁を繰り返した。

日本は平和憲法のもと、他国に対する軍事介入や武器支援は行わず、そのことが世界各地での日本に対する信頼につながってきた。欧米（特にアメリカ）への反発が強い中東やアフリカ地域でも日本への安心感は定着し、日本のNGOの活動がそれに助けられることも少なくなかった。

その信頼の前提となってきた日本の平和主義が、国際協力の分野ではOSAによって崩されようとしている。外務省が「ODAとは別」と言ったところで、供与される相手から「日本が武器の援助を始めた」と見えるのは間違いない。

武器供与は先は相手国の国軍だが、今年度対象国のフィリピン、あるいはミャンマーをはじめ、国軍が住民を弾圧している国は少なくない。4月に紛争が勃発したスーダンのように国軍が内戦の当事者となり住民への攻撃を行うケースもある。日本が支援した武器によって人々の命が奪われる可能性は、私たちの想像よりもずっと高いのである。

国際協力に携わるNGOとして、これからもOSAに反対の声を挙げていきたいと思う。

今井高樹（いまいたかき）
日本国際ボランティアセンター（JVC）代表理事

特集

住民を軍事監視区域に囲い込む土地規制法

谷山博史

となる。

6月13日、沖縄県の若手市町村議員の有志12名が土地規制法の沖縄県への適用に備えて緊急対策会議を開いた。私が所属する2団体、土地規制法対策沖縄弁護団と土地規制法の廃止を求める沖縄県民有志の会も参加した。ここで住民のプライバシー権をはじめとした人権を守るために市町村当局への働きかけの方法が話し合われるとともに、地方議員、弁護団、県民有志の会の新たなネットワークが作られ情報交換と連携を進めていくことになった。

土地規制法とは、安全保障上重要な施設周辺や国境離島を「監視区域」や「特別監視区域」に指定し、区域内の住民を調査・監視するものである。自衛隊や米軍の基地、海上保安庁の施設、原発などの周辺と国境を画する離島の一定区域が対象となる。これらの区域の住民の行動が指定された重要施設や国境離島の安全保障上の機能を「阻害」している、あるいは「その恐れ」があると認められた場合には処罰することができる。「特別監視区域」では不動産の売買の事前届け出が義務づけられる。

この法律は政府が進める「戦争政策」の住民統制という軍事化のもう一つの側面を

なしている。戦前の要塞地帯法や軍機保護法の現代版である。私は2021年に法案段階にあった時点から全国的な反対運動に参加してきた。全国的な運動は土地規制法廃止アクション、土地規制法を廃止にする全国自治体議員団、沖縄一坪反戦地主会関東ブロックが中心となって行っている。そして今法は私の足元、沖縄を「軍事監視区域」に囲い込むようとしている。住民の人権と市民活動の自由を守る戦いは地域に戦いの場を移したのである。

谷山博史（たにやまひろし）

土地規制法対策沖縄弁護団、土地規制法廃止アクション事務局、沖縄対話プロジェクト呼びかけ人兼実行委員。JVC前代表／現顧問、沖縄名護市在住。法政大学人間環境学部と東洋大学国際学部で非常勤講師も務める。

この緊急会議は5月12日に政府が土地規制法を適用する新たな区域候補に沖縄県を選定したことを受けてのものであった。候補となったのは沖縄県の3市3町5村を含む合計1都9県161カ所である。当該自治体への約1か月の「意見聴取」期間を経て8月には区域指定が確定することになる。これに先立って今年2月には、2021年に法律が成立して初めての区域指定が施行された。北海道の根室市、松前町、枝幸町、厚岸町を含む10道府県58カ所である。今後2024年までに全国で合わせて600カ所が指定されるこ

オーガニック・自然食品専門店



おべんとうとおそうざい

らるごはん

札幌市中央区大通西23丁目

Tel 614-2406 Fax 614-3836

http://rarubatake.com

10時～19時(日～17時・祝～18時)

憲法を私たちの生活に！

厚別9条の会

会員は厚別を中心に、沖縄のアメリカ兵まで約100名

共同代表 渡辺 信一

TEL.090-6218-8284 FAX.011-897-8390

E-mail: mbwatanabe@yahoo.co.jp

いつだって No Nuke !



北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

特集

G7広島サミットを問う市民の集いに
参加して

七尾寿子

5月19〜21日のG7広島サミットの期間中の警戒態勢はひどかった。企業は休業、学校は休校。野球も中止で空港バスも運休。平和記念公園や宮島が封鎖され、市民生活は麻痺状態。2万4千人の最大級の警備体制が敷かれ、「市民のつどい」も13・14日しかできなかった。

土地には、歴史が刻まれている。為政者は、その歴史を都合よく利用して上書きしようとする、とつくづく思った。

2000年G8沖縄での開催は、1995年の少女暴行事件で米軍基地反対の声が噴出した沖縄の怒りを抑える意図があった。ロシアを抜きG7となった広島サミットは、被爆都市の平和を謳ったが、発表された「広島ビジョン」は、核廃絶とは真逆の「核の抑止」の正当化を宣言し、被爆地広島市の怒りと失望は大きかった。

13日の集会は、8時間にわたった。「市民のつどい」を準備してきたメンバーはずっと、かつての軍都広島と現在の軍事基地化に向き合ってきた人たちで会はそのレクチャーから

始まった。

被爆者の豊永恵三郎さんは特別報告で在外被爆者支援に関わったのお話をされた。続いて8人の方から多彩なテーマで中身の濃い発言を受けた。元広島平和研究所の田中利幸さんは、原爆と天皇について言及し、日米両政府とも原爆を戦争終了の理由としているが、それぞれの思惑による「招爆責任」を隠蔽とりわけ日本は侵略戦争の責任を無視し続けていると指摘した。札幌でも講演した小倉利丸さんはサミットは「偽旗作戦」だが侮ってはいけないとG7のプロパガンダを暴いた。

白川真澄さんはG7対中国包囲網の要として経済安保戦略について話された。安保3文書の改定で、実は経済安保は大きな柱だ。（以上は、「G7広島サミットを問う市民のつどい」ウェブサイトで視聴できる）

14日午前は、軍都広島が実感されるフィールドワーク。スタートは比治山。戦後設立された旧ABCC（原爆障害調査委員会）は被爆者の治療ではなく調査のみを目的として設置されたことで有名。ここにあった陸軍墓地

は近くに移転。旧日本軍の施設である巨大な被爆建物の被服廠は昨年ようやく保存が決まった。旧宇品港の陸軍棧橋跡からは対岸のサミット会場がよく見えた。

午後は、晴天の下、原爆ドーム前での集会とデモ。デモは、アーケードの商店街で注目を浴びて、市民のつどいは終わった。

サミット本番には、ウクライナのゼレンスキー大統領が登場した。ウクライナ戦争は、ロシアの「違法な侵略戦争」とそれに抗するウクライナの「自衛戦争」であるだけでなく、「ウクライナを矢面に立てた米NATOの対口弱体化戦争」という性格を有する。岸田政権は、この「対口弱体化戦争」に、経済制裁という形で「参戦」し「殺傷能力のない装備」から「武器」供与へと舵を切って行こうとしている。

岸田首相は軍拡のために被爆地ヒロシマを政治利用するな！

私たちは、戦争も核兵器も原発も気候危機も性差別も解決できないG7を、広島で終わらせることを訴える。

七尾寿子（ななおひさこ）

さっぽろ自由学校「遊」会員。「G7広島サミットを問う市民のつどい」呼びかけ人。

特集

まとめに代えて

台湾と協調し「有事」回避を
アジアの一員として植民地責任に向き合うべきだ

飯島秀明

今回の特集では、安保3文書の改定に関し、日本の取るべき政策としていかに危険か、さまざまな観点から指摘された。ここでは少し角度を変え、日本と台湾の関係という観点から、3文書改定が打ち出した大軍拡路線について考えてみたい。そこで強調したいのは、台湾がかつて日本の植民地だったということだ。

明治維新後、近代国家の形成の中で日本は、北のヤウンモシリを領土に組み入れ、アイヌ民族の生活基盤を奪いながら開拓、南は琉球王国を武力による威嚇で併合した。その後、朝鮮をめぐる対立を背景に初めて国家として戦ったのが日清戦争。日本は勝利し、台湾を奪い取った。清が「化外の地」として統治に消極的だった台湾で、日本の支配の下、急速な産業近代化が始められた。抗日運動弾圧のための「匪徒刑罰令」では官吏に抵抗しただけで死刑とされ、数千人が命を奪われたと言われる。

なぜ100年以上も前の歴史を振り返るのか、それは、戦後日本が、過去の植民地支配

と侵略という過ちをすっかり忘れ去っているように思えてならないからだ。中華民国、中華人民共和国とも戦後、日本に対する賠償請求権を放棄しているが、それでこの国の歴史的な不正義まで清算されたいと言えるのだろうか。

「台湾有事は日本有事」と故安倍晋三首相らが発言したが、二つは別ものであり、日本は台湾有事の当事者ではない。しかし、かつて日本が植民地支配で抑圧・収奪し、戦後は長く戒厳体制下に置かれ、ようやく民主化を勝ち取った台湾の民衆に寄り添う歴史的責任が、日本にはあるのではないだろうか。

共産党の統治下での一国二制度が欺瞞であることは香港が証明しており、共産党主導の統一を急ぐべきではない。台湾でも、今すぐの独立や統一を望む人は1割に満たないとされる。実は中国もまた、台湾の独立は武力でも阻止するが、統一は平和的に行う考えを示している。ならば私たちの行うべきは、米国に追隨して台湾有事を喧伝し軍拡を急ぐことではない。

安保3文書に現れた日本の軍拡は、琉球弧を再び戦場にすることさえ辞さずに地域の緊張を高めるだけではなく、台湾を置き去りにして米国の対中強硬策の一翼を担うという点で、アジアの一員として決して取るべき道ではない。

明確なロシアの侵略であるウクライナ戦争が、世界の願いにもかかわらず今も続いている通り、戦争を終わらせるのは容易なことではない。台湾有事回避の道を、台湾と共に考えていくべきだ。いくら近隣と対立しても国ごと引越すわけにはいかない。私たちはこの地で国を越えて手を携え、平和を構築していくしかないのだ。



Simple Life, High Thinking

小4から高3まで
スコア ユウ

〒007-0866 札幌市東区伏古6条4丁目4-21
TEL. 785-0228

寄稿

「思考停止装置」に抗い続けた人、
加藤多一さんを悼む

長谷川綾

多一さんに初めて会ったのは、私が札幌勤務になった2012年だったと思う。「長谷川です」と名乗ったら、下の名前を聞かれて、こう宣言された。「長谷川はイエの名前。綾は、あなたの父さん、母さんが付けてくれたあなた自身の名前。だからこれからは『綾さん』と呼びます」。女性をかんじがらめにしてきた「イエ」、家父長制への強烈な問題提起だった。

あれから10年あまり。「多一語」の解説が聞きたくて、私はことあるごとに問い続けた。チエルノブイリ並みの原発事故が起きて、大勢の人の住まい、暮らし、命が奪われても、「安倍一強」といわれる政治が続く。この日本が変われないのはなぜ？じつくり私の問いに耳を傾け、ゆっくりと言葉を選び出す。そして最後に必ずと言っていいほど「口にするのが、「日本には、天皇がいるからね」だった。

「天皇制は『思考停止装置』。多一さんは、繰り返し言っていた。「象徴だからいい。権威であっても、権力はないという。だがそこが問題なのだ。権力システムとしての政府は、権威のかけにかくれて生きのびている。反権力はすなわち反権威(反天皇)になるのだと迫る」。だから、「平和憲法の第1章が『天皇』なのはおかしい」という「改憲論者」だった。

18年12月23日の「天皇誕生日」、札幌で開かれた集会『「天皇制」の時代を語る』(主催・日本の戦後責任を清算するため行動する北海道の会)で、哲学者・花崎皋平さんと対談。孫世代の北大生が追加取材、再構成した「週刊金曜日」19年4月26日号などで、多一さんはこう述べている。

「すべてに対して、とことん追及しない思考停止の根本に、天皇制があるのではないかと疑っている。町内会の不正、校長先生のセクハラ、子どもが命懸けで訴えた学校でいじめ、そういう問題をとことん追及する人は、はじかれる。『まあまあ』で終わらせちゃつ」

「権力は政府にあり、権威は天皇にある。政府が謝罪すると、天皇が謝罪したことになる。ところが、日本人には天皇制が骨の髄まで染みついているから、天皇は絶対謝つちやいかんわけ。天皇は間違わないという信仰があるもんですからね。日本政府は謝罪できないわけさ。戦争であれだけ悪いことをやったのにね。同時に、日本人は権力を追いつめることもしない。権威に傷がつくから」

原体験は、生まれ故郷・滝上にある。「僕は、鉄道の終点から12キロも山に入った紋別郡滝上村(現・滝上町)の農家の田舎の子どもだった。水道も電気もなく、敷地に泉が湧いている桃源郷のよ

多大な迷惑をかけた。戦争中は、沖縄の人を集団自決に追い込み、食べ物、住まい、生活、家族を奪った。戦後は、たくさん慰霊碑をたてて、米軍基地で狭くされている沖縄の土地をさらに狭くしている、と。

沖縄では県外の人を「ナイチャー」といい、北海道では道外を「内地」と呼ぶ。はたと気づく。沖縄戦で県民は12万人が死に、北海道民は次いで多い1万人超が死んだ。犠牲が圧倒的に多いのは、どちらも「外地」だからだ、と。琉球処分につい

うなところ。客が来ると、駅まで馬そりで迎えに行った。雌馬がそりを引く張って歩くでしょ。時々おしっこをする。すると近所のおやじさんたちがね、『あそこばかり見るなよ』と僕をからかうわけ。『馬の種付けでも犬の種付けでもヤギの種付けでも、みんな見てるだろ。天皇陛下さまも同じで、やることやってあそこから生まれるしかない』って。僕はこれを『農民リアリズム』って呼んでいる。すべての学校に奉安殿があって、天皇の写真と教育勅語が置いてある時代に、天皇の神秘さとかいう発想がそもそもない。農民リアリズムは、天皇制までも跳ね返すものなんだね」

多一さんが小学1年、7歳の時、21歳の次兄(とうい)さんが徴兵された。1945年6月、輝一さんは沖縄で死んだ。24歳。多一さんは小学5年、11歳だった。2カ月後に敗戦。「朝から墨塗りなんです。日の丸の旗が描かれた『神聖』な国定教科書を墨で塗っていく。GHQの指示もあったが、文部省がそう決めた。一番塗ったのは修身、今でいう道徳の教科書と、歴史の教科書。ところが何ページの何行目を消しなさいと言われても、間違っわけよ。すると先生が『構わん、構わん』って言うんですね。教師というのはこの程度かと」

著書「兄は沖縄で死んだ 童話作家・心の軌跡」(高文研、2015年)で、多一さんは思索を重ねる。「天皇制と軍国主義を叩きこまれた身体と内臓の生体実験報告」と称して。

ては学んだが、「アイヌ処分」については学んではなかった、と自身の「無知」を恥じ入った。70歳を過ぎてから、辞書を片手にアイヌ語とアイヌ文化を学び始めた。

北大2年、21歳の時の詩がある。詰め襟姿で山の頂に立つ多一青年の写真に添えられていたのを、長男の卓さんがアルバム整理で見つけた。「30・6・10未明 ニセコアンヌプリに立つ」。昭和30年(1955年)、68年前の創作だ。

「連峰の雪の中に一ひらの閃きのあるようにほころんだ花の吐息は 夜の極みにのみ 聞かれるように あゝ そのような 私の心よ残り」
veとはフランス語で「人生」。みずみずしい、青春の一瞬を、この詩に書き留めたのだ。多一さんは、人生が美しいことを知っていた。だからこそ、その人生を奪う戦争に、戦争の元凶となった「思考停止装置」の天皇制に、こたわったのだろう。

◇ ◇ ◇
児童文学作家・加藤多一(かとう・たいち)さんは3月18日、小樽で死去。享年88歳。代表作「馬を洗って…」は「戦争児童文学傑作選」に収録されている。

長谷川綾(はせがわあや)

北海道新聞記者



『「天皇制」の時代を語る」集会で聴衆90人を前に語りかける加藤多一さん＝2018年12月23日、札幌エルプラザ

稿 寄

旭川市議会議員選挙・体験記

小林ゆうき

私は元々、今の政治には女性・若者・様々な当事者の声が届いていないと感じていた。2021年9月末の旭川市議会の女性比率は17・6%、平均年齢は59・6歳、20代の議員は一人もいなかった。また、一期目の女性議員たちからは、選挙で数百万円の借金をしたとも聞いていた。市民の半数以上は女性なのに、政治の場は生活に余裕のある高齢者や男性にほぼ独占されている。

この状態に一石を投じたいという気持ちがあった。また、選挙は民主主義を考える機会であると思っている。市民が政治から排除され、低投票率や無投票当選が問題となり、人権を守らない国の中で自己責任論が蔓延している。20代女性でも、お金をかけなくても、従来のやり方でもなく、立候補して社会を変えていける。それを示すことで、次の世代につなげたいと思った。

選挙戦は、結果ではなく過程や市民目線を重視した。いわゆる「選挙戦」らしい、①特定地域を地盤としない、②顔入りのポスター・のぼり・看板を出さない、③街宣車や拡声器

を使わないことにした。代わりに会いに来てくれた方との対話をメインにおいた。コミュニケーションが取れるSNSを活用し、利用者層を考えて伝えるための工夫に力を入れた。

周囲はこの選挙活動に懐疑的で、多くのことから「それじゃ受からない」と言われたが、「SNSを見て会いに来た」人たちはだんだんと増えて行った。出会った人たちとSNSを交換して気軽に関係を継続できることも大きな利点だった。



そして、選挙の結果2923名の方から投票してもらい当選することができた。旭川市議会の女性比率は29・4%、平均

年齢は54・2歳となった。

一方でハードルを感じることも多かった。立候補届けには大量の書類が必要で、説明会でも詳細には触れないため、その読み込みから作成に大きな負担がある。また、公職選挙法の解釈には地域差がある上、現職議員の中でも判断が分かれ混乱することばかりだった。政治に対する忌避感の強さや生活の余裕の無さ、平日の日中にボランティアで活動する必要もあるため、人材確保も大きなハードルだった。

女性としての困難もあった。何もわかっていないだろうという目線のマンスプレイングや票ハラ、「可愛いから受かるよ」「おじさんと寝ればいいんじゃない」といった言葉をかけられることもあった。

無所属新人20代女性、これだけで情報・資源・安全性などのハードルが何重にもなる。この問題もこれからの4年間で取り組むべき課題だと考えている。

小林ゆうき（こばやしゆうき）

1993年生まれ。虐待サバイバー。北海学園大学在学中に「遊」でインターンを経験。2020年に卒業後、女性サポート団体NOLIMIT旭川を立ち上げる。2023年4月の旭川市議選挙にて初当選。

リレーエッセイ 私と、さつぽろ自由学校「遊」 第6回

のとむつみ 能登睦美

自由学校と聞いて、「学校に行かない人の学ぶフリースクール？」と思う人もいて、「さつぽろ・自由学校『遊』の自由はフリーじゃなくて、フリーダムなのだ」と言ったりしました。権利、自主、独立などの自由であって、

解き放たれることではないと難しく考えていました。最近、押さえつけられない「フリー」も大事だなと思うようになってきています。

「遊」のスローガンに「私が変わる、世界が変わる」があり、なんだか謎のフレーズですが、自分の理解では「学びの主体者として、どのように変容するかがとても大事で、そのことが、やがて社会の変革につながる」ということかなと思っています。

私がいままで企画したり参加したりした講座で楽しかったと思うのは、主に「もの作り」関係の講座です。ハーブ料理、羊毛のフェルト作品製作、自然物を材料としたマリオネット作り、キャンドル作りなどです。もの作り講座では、講師の皆さんが親切で、受講する



皆さんとの共同作業はとても心地よいものでした。他に「写真講座」や「映像作家になろう」という講座で自分なりの作品を作れるようになって、自信もついてきて、さらに仕事にも役に立ち、とてもありがたかったです。

今現在は、「読書室よりみちまわりみち」への参加をとて楽しみにしています。参加者が自分が読んだ本を紹介し合うのですが、本の分野も感想もみんなちがってよいと気づかされました。そして、自分の読書傾向が分

かってきました。私は小説の映画化や映画の小説化に興味があるのだと気づきました。

今年は共同で講座を企画することに挑戦しています。「女性の貧困を考える」という人権に関わるテーマの講座ですが、コーディネート3人でよく打ち合わせをして共通理解を進め、講座を進めるにあたっての変更や調整も粘り強くやっているといます。講座を作るのも「遊」の会員としての面白さかなと思います。

自分がんばりすぎることが多かったのですが、ここ数年は「何事も、できるだけがんばらない」ということを目指しています。

がんばらなくてもできて、それなりに分かち合えて、冬眠（休憩）してもいい、そんな感じの講座があったらいいなあと考えています。

たとえば「がんばらないお裁縫講座」とかです。秘けつは、教え合い助け合うことかなあ：写真で着ているブラウスは「遊」の講座で作ったものです。



原田 公久枝 第6回

六月八日(木) 知里幸恵 生誕二二〇年記念コンサートで川上容子ちゃんが歌うので聞きに行きました。いつもながらの素晴らしいパフォーマンスで、本当は一緒にやるはずだったカントレ奏者のあらひろこさんのことを思っ泣いてしまう場面もありましたが、容子ちゃんが歌っているのに合わせるかのよう外で鳥がさえずって、夢の中で聞いているかのような時間を過ごしました。あんな凄い人と「私達、キャッツアイヌ！」とか言ってますが、まあお笑いも大切な要素の一つです。銀のしずく記念館の駐車場に停めて車から降りたら、興奮気味に駐車場係のお兄ちゃんが「原田公久枝さんですよね！」って声をかけてくれて笑った。記念館に入った時も「原田公久枝さん…ですか？」と言われて、フル

ネーム呼びが流行ってるのかな？ 記念館の方から「来年とか企画したら出演して貰えたりしますか？」って言ってもらえたから、そのうち私もあの素敵ところで歌わせてもらえそう♪

知里幸恵さんといえば四月から道新の夕刊で始まった(不定期ですが火曜日に載る)「アイヌ神謡集」刊行一〇〇年企画は皆さん読んでますか？一回目が四月二六日で横山むつみさんの娘さんで今の銀のしずく記念館の館長の木原仁美さん、二回目が五月二日土橋芳美さん、三回目が我が歌姫容子ちゃん五月三〇日に載りましたが、読んでいて泣いちゃいました。素晴らしいので皆さん是非読んでください。

実は私も頼まれていたのに書くのが遅くなって、これから載りますが、容子ちゃんのはあとキツイなあ…と原稿は早く書かなきゃなあ…と思っっているはずなのに私は今、この原稿を二風谷で書いています。ウレクレクという音楽イベントで歌うのですが、ウレクレクは六月一七日で、この原稿のメ切は六月一日なんです…

六月二五日(日)はクリスマスセンター

で牧師さんの勉強会で講演、二七、二八日は釧路教育大の授業二つ、二九日釧路の帰りにそのまま栗山に寄って「栗山の開拓記念館を博物館にしよう五年計画」の第一回シンポジウム。七月に入ると一日(土)ラテンアメリカ文化人類学会の聞き取り調査に協力、三日(月)は遊で幌村さんが話すから聞きに行く。八日(土)やまさき先生に頼まれて北大周辺に残るアイヌ文化のガイド、八、九日両日はシアターキノで『大地よ』が上映されて舞台挨拶もあるからシーちゃん(宇梶静江さん)に会いに行く。二二、二三日慶應義塾大学授業、二七日は「栗山の開拓記念館を博物館にしよう五年計画」二回目のシンポジウム、三〇日(日)は北海道博物館で容子ちゃんと子ども向けワークショップ、という怒涛の夏の始まりです。

原田公久枝(はらだきくえ)

札幌在住。18才年上の旦那有り。子供なし。集金と配達のパートをしながら、アイヌの活動(歌・踊り・講演・執筆・お笑い等)をしている55歳です。

第九回 村井吉敬『小さな民からの発想』

『エビと日本人』で知られる村井吉敬さん(一九四三〜二〇二三年)が亡くなって一〇年が経つ。

その村井さんが若いころに書いたものに『小さな民からの発想 顔のない豊かさを問う』(一九八二年刊)という本がある。この本、とても不思議な本で、インドネシア・ジャワ島の話があったかと思うと、いきなり場面が変わって高知県西土佐村の話になったり、かと思うと、今度はインドネシアの民謡が紹介されたりと、めくるめく話が進んでいく。しかし、読み進めるにつれ、「豊かさとは何か」について、どんどん話が深まる。そんな不思議で魅力的な本だ。

舞台の一つ、高知県西土佐村は、戦前、その貧しさから、村ごとの満州移民が図られた地域だ。

「ひどい状況にある村は『経済更生指定村』とされ満州移民を更生計画の最優先策として設定せざるを得ないところに追い込まれた。(中略)太平洋戦争の緒戦の大勝に見送られ、『鉄の戦士』が村をあとにしたのは一九四二年三月三日のことであった。



ジャワの蘭印軍がバンドンで日本に降伏宣言を發した四日後のことである。そのジャワからも、同じように『経済戦士』という呼ばれ方で、貧しい農民たちが『ロームシャ』として泰緬鉄道の現場へ、あるいはアンボンの飛行場建設の現場へと送られていた。デラシネの民への旅立ちにおいて、西土佐もジャワも等しく悲惨である。「蘭印」はオランダ領東インドで、現在のインドネシアのこと。「デラシネ」は故郷から切り離された民。

その西土佐村で村井さんは稲田竹美さんという鍛冶屋職人に会っている。

稲田さんは一九二〇年に貧しい炭焼きのせがれとして生まれ、小学校卒業後の二歳で鍛冶屋に弟子入りしている。「竹美さんは炭をこねるところから始めた。誰も技術を口では教えてくれない。技術の伝達はコトバで表わして分かるようなものではないと竹美さんは言っ

その後稲田さんは兵隊にとられ、しかし、軍隊では鍛冶屋として重宝された。軍馬の蹄鉄を打つために槌をふるったのである。復員後は、鍛冶屋を続けしたが、一〇年ほど経って、需要がなくなり、廃業した。

村井さんは、この村の「工業」に大いに関心をもち、稲田さんの話につい

て、「工業というものは都会でのみ成り立つ大工業しかイメージせぬ近代化論者への、生活からの批判を提起されているのではないかと思う」と書いた。

稲田さんの話のすぐあとに村井さんはインドネシア・西ジャワの鍛冶屋の話を取りあげる。そこで村井さんは、地域の需要の中で技術を発展させてきた鍛冶屋たちを見る。「もともと昔の産業は地方性があつた。鎌や鋏には顔があつた」と村井さんは書く。

インドネシアと日本の両方を行き来しながら書かれたこの『小さな民からの発想』は、たくさん本を書いてきた村井さんの著作の中でも名著のひとつだ。しかし、しばらく絶版だった。そこで、このたび出版社「めこん」から新装再刊されることになった。当時村井さんが撮っていた写真も数多く挿入されて新しく生まれ変わった『小さな民からの発想』、多くの人に読まれるとうれしい。

▼村井吉敬『小さな民からの発想 顔のない豊かさを問う』(解説・宮内泰介) (めこん) 六月刊行予定

宮内泰介(みやうちたいすけ)

1961年生まれ。さっぽろ自由学校「遊」共同代表。北海道大学教員(環境社会学)。ソロモン諸島、北海道、宮城などで環境、生活の調査中。

新任のご挨拶

八木亜紀子（やぎあきこ）

「遊」のみなさま、はじめまして。この6月より2年間の予定で東京の開発教育協会（DEAR）より在籍出向してきまして、八木と申します。

「遊」と「市民外交センター」が事務局を務める「森川海のアイヌ先住権研究プロジェクト」と「遊」の業務を担いつつ、週1日程度はDEARの仕事も継続する予定です。これから講座などでお会いする機会があるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

大学時代に国際ワークキャンプに参加したことをきっかけに、ずっとボランティアや市民活動の世界で働いてきました。特に、フィリピンの先住民族・アエタ族との関わりの中で、故・越田清和さんにも大変お世話になりました。国際協力に携わりながら、日本も含むグローバル・サウスの政治や市民が変化することがより公正で持続可能な社会をつくることにつながると考えるようになり、開発教育に取り組んできました。2017年度からは、アジア太平洋資料センター（PARC）の役員も務めています。

大学を卒業するまで温暖な静岡県で育ち、その後は長く東京に暮らしていたので、北海道は憧れの地でもありました。札幌に暮らしてまだ1か月ですが、食べ物おいしいこと、自然が身近にあること、湿度がなくて過ごしやすいくことに感激しています。冬の暮らしが不安なので、いろいろ教えてください。







6月13日（火）に事務所の大掃除をしました。大嶋さん、黒田さん、七尾さん、細谷さん、ありがとうございました。

さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

オンライン開催講座（2023年7～8月開講分）



講座のお申込は、
<https://ssl.form-mailer.jp/fms/829a2f3f778535>
より申込フォームにご記入のうえ、送信ください。



Let's Talk! 世界と出会う英語 ★アンドレス・パトリシアン
毎月第二・第四月曜 19:00～

タシハンボン / もういちど ハングル ★コ・ソンギョン
毎月第二・第四木曜 19:00～

SDGs「私たちの声を、地域に」part2 —当事者からみた地域の課題と政策
③ 7/25（火）19:00～ 研究者の役割＝知った者の責務 ★山中康裕
④ 8/29（火）19:00～ 市民の自発的活動が社会を変える ★中西希恵、佐藤雅一


なぜ公害はつづくのか

- ③ 7/11（火）19:00～ 水俣病患者たちの今 —胎児性患者の「65 歳問題」から考える ★野澤淳史
- ④ 8/8（火）19:00～ 足尾銅山鉍煙毒事件は何を今に語るのか ★友澤悠季

さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

会場&オンライン併用講座（2023年7～8月開講分）

（会場記載のないものは愛生館ビル5F 501 会議室にて）



先住民族の森川海に関する権利 —ヤウンモシリ（北海道）の森林とアイヌ民族
③ 7/3（月）19:00～ 対談ライブ・三石川の自然と先住権 ★お話：幌村司 聞き手：平田剛士
④ 8/7（月）19:00～ 自然界とアイヌの生活 ★お話：アシリレラ（山道 康子） 聞き手：八重樫志仁

北海道の問題から地球と共生の未来を考える part 3
札幌オリパラを考えよう
③ 7/4（火）18:45～ クーベルタンの「夢と悪夢」から考えるオリンピックの未来 ★上村英明
④ 8/1（火）18:45～ 地域からオリンピックをどう見るか ★奥田仁

カール・マルクス著『資本論』を読む ★チューター 宮田和保
③ 7/5（水）18:45～ ④ 8/2（水）18:45～

人と動物との共存・共生をめざして part 2
④ 7/7（金）18:45～ タンチョウはなぜ遊水地に棲み続けるの？ ★正富宏之、正富欣之
⑤ 8/4（金）18:45～ 北海道立「動物愛護センター」設立のための保護活動 ★川添敏弘

動物福祉の名著『アニマル・マシーン』を読む ★コーディネーター 滝川康治
④ 7/8（土）13:30～ ⑤ 8/5（土）13:30～

20 世紀を切り開いたアイヌ列伝 part 3
③ 7/12（水）18:45～ 移住、また移住、また移住の天川恵三郎 ★平山裕人
④ 8/9（水）19:00～ 山辺安之助 自ら学校をつくる ★小川正人

森崎和江を偲ぶ
③ 7/15（土）14:00～ 森崎和江の越境する連帯の思想 ★玄武岩

越境する人と文化を通して読み解く東アジア IV ★講師 朴仁哲
④ 7/18（火）18:45～ 韓国の慶尚北道を事例として
⑤ 8/22（火）18:45～ 中国の黒龍江省を事例として

このままでいい？ 再生可能エネルギーの進め方 part12
③ 7/20（木）18:45～ 水俣の地形・地質と風力発電問題 ★長峰智
④ 8/17（木）18:45～ みなまたに風車はいらない ★中村雄幸

女性の貧困を考える
③ 7/21（金）18:45～ コロナ禍でより鮮明になった貧困と格差 ★工藤遥、五嶋輝祥、yuki
④ 8/18（金）18:45～ 女性労働の現状について ★近藤恵子、桃井希生

日本の植民地主義を考える ー共につなぐ未来のために
③ 7/24（月）18:45～ 戦時中の三井炭炭鉱労働者の記憶をつなぐ ★長谷山隆博
④ 8/21（月）18:45～ 民族学級を知っていますか ★李月順

簡単健康講座 —五臓六腑の五臓を学ぶ。東洋医学でお手軽養生！ ★講師 堀口恭弘
③ 7/27（木）18:30～ 倉廩の官「脾」とは ④ 8/24（木）18:30～ 相傳の官「肺」とは

現代と歴史 —ウクライナ戦争とアジア・太平洋戦争を考える ★講師 北村公一
③ 7/26（水）18:45～ アジア太平洋戦争後半 戦争とは何か
④ 8/30（水）18:45～ 太平洋戦争の終戦工作と敗戦、戦争の終わり方 戦争とは何か

出版文化の可能性 —北海道から全国に向けて発信しよう part 1
② 7/28（金）18:45～ 社会運動を本にしよう ★下郷沙季
③ 8/25（金）18:45～ ノンフィクションの作り方 ★山本哲平



さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

教室開催講座（2023 年 7～8 月開講分）

（会場記載のないものは愛生館ビル 5 F 501 会議室にて）



花さんの読書ゼミ 記憶に残る詩を味わう ★チューター 花崎皋平

③ 7/13（木）14:00～ ④ 8/10（木）14:00～

映像で見るウクライナの今

③ 7/13（木）18:45～ ブチャなどのキーウ周辺の虐殺 ★ツアゲールニック・タッチャナ ほか
④ 8/10（木）18:45～ 戦時下の市民ボランティア連帯 ★クラコワ・ペロニカ ほか

老いと向き合う part 9

③ 7/7（金）14:00～ 自然葬 32 年の歩み ★俵屋年彦
④ 8/4（金）14:00～ 交流会
⑤ 9/1（金）14:00～ おひとりさまの食生活 ★今嗣王、細谷洋子

「遊」版うたごえ喫茶 2023 於：愛生館サロン（愛生館ビル 6 F 南側奥）

④ 7/21（金）14:00～ ⑤ 8/18（金）14:00～

読書室 よりみちまわりみち

④ 7/15（土）14:00～ ⑤ 8/19（土）14:00～

アイヌアートデザイン教室 ★講師 貝澤珠美

毎月第二・第四水曜 13:00～

内科・神経内科
**札幌中央
ファミリークリニック**
外来一般診療
月火木金 9:00～11:30
札幌市中央区南 1 条西 11 丁目
ワンズ南一条ビル 6 F
TEL. 272-3455

EAST TIMOR
MAUBISSE COFFEE
東ティモール オペーリック
マウベンシ コffee フェアトレード
090-8897-3134

生活クラブは、
ちょっと変わった
生協です♪
モットーは
「おいしくてカラダによくて
自然を壊さない」です
生活クラブ北海道 検索

編集後記

6 月から八木さんが加わり、7 年ぶりに事務局複数体制となります。少々さびついた「遊」のあれこれの刷新にご期待ください。（こ）

浦幌で「先住権としての川でサケを獲る権利」（表紙）に参加。海外ゲストから「成功例」を聞けると思っていたが、為政者の無理解と不作為は世界共通であった…。（や）

ゆうひろば

発行：NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」

〒060-0061 札幌市中央区南 1 条西 5 丁目 愛生館ビル 5 F 501

・郵便振替口座： 02780-5-47036（名義：自由学校「遊」）

・TEL:011-252-6752

・FAX:011-252-6751

・syu@sapporoyu.org

・http://www.sapporoyu.org



web サイト



F B ページ